

米国の政権交代



米国で Green jobs プロジェクトが始動します

そして産業構造に変化が

米国では Green jobs が話題になっており、いよいよ次期大統領の指導力が問われる年になりました。

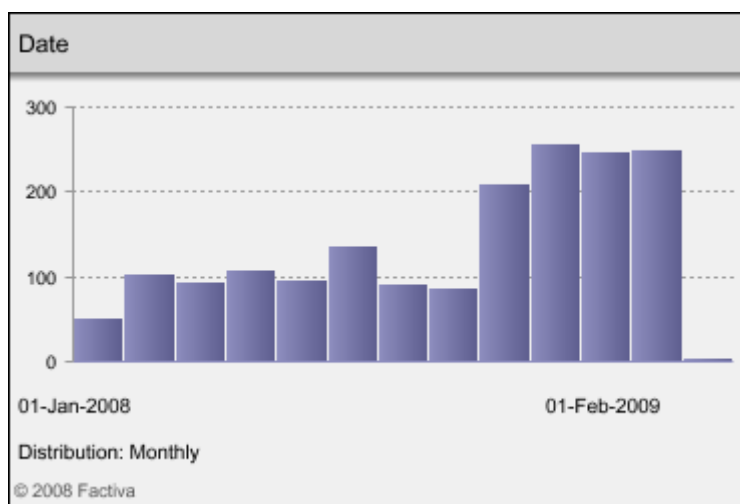
そこで、「ファクティバ・サーチ 2.0」(ダウ・ジョーンズ社のデータベースサービス)で、昨年 1 年間の Green jobs に関わる報道の状況を調べてみました。

ファクティバ・サーチ 2.0 の説明は以下をご覧ください

http://jp.factiva.com/links/factiva_pdf/FactivaSearch20OverviewJ.pdf

以下の棒グラフは、「太陽」および Green jobs という言葉を含む記事の 1 月から 12 月までの月毎の合計数を示しています。

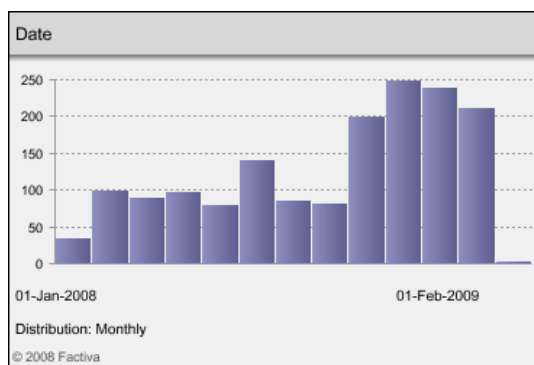
第 4 四半期になると関連記事が急増し、期待が膨らんでいることがわかります。



Search: solar "green jobs"

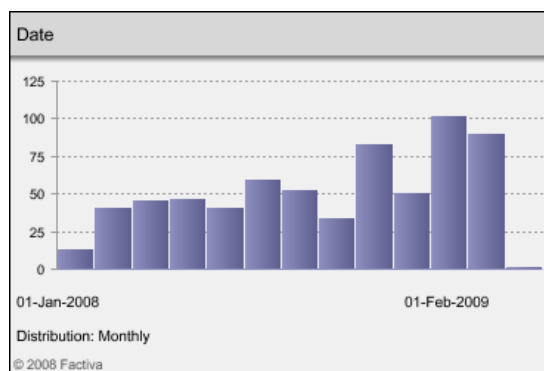
(Web 公開)「世界のエネルギーの話題」(2009年 1 月 7日)

「太陽」の次に記事が多いのは「風力」です。



Search: wind "green jobs"

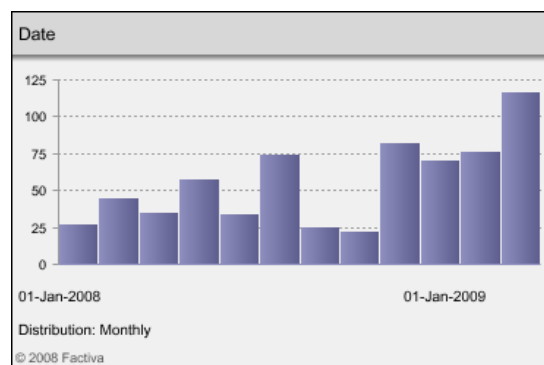
「バイオ燃料」に関わる記事も少なくありません。



Search: biofuels "green jobs"

そして、建設業界が期待しています。

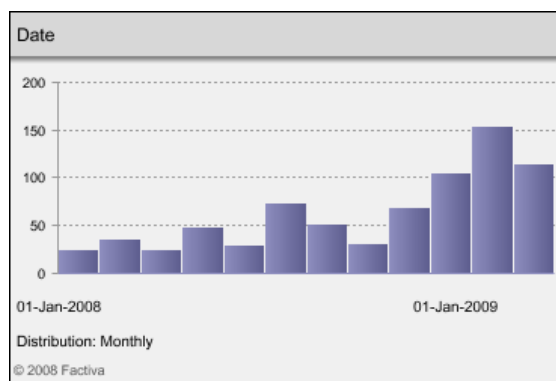
古い建物を省エネ型に改築、改造することも重要な green jobs だそうです。



Search: buildings construction "Green jobs"

化石燃料では石炭に関わる記事がかなりありました。

こちらは CO2 排出量が多いという批判にどのように対処するかという話が多いようです。



Search: coal "green jobs"

ここから具体的な話です

自動車ガラス等の自動車部品の生産で知られるオハイオ州のトレド市およびその郊外では、「約 6000 人が太陽関連のビジネスに従事しており、その人数は同地域にある 2 つの大きな自動車工場の従業員数を超えている」(12 月 7 日、Associated Press Newswires)と報じられています。

この自動車工場は、Chrysler および General Motors の工場です。ともに例年より長い期間の操業停止が今も続いています。

「両社を合わせて 5000 人以上が一時解雇されて」(12 月 19 日、The Blade (MCT))います。

元気なのは「太陽」です

トレド市の郊外に太陽電池大手 First Solar(本拠地:アリゾナ州テンペ市)の工場があります。

この工場は昨年 10 月に、「太陽電池モジュールの製造能力を現在の 144 メガワットから 192 メガワットに増強する工事を開始」(10 月 7 日、The Blade (MCT))しています。

First Solar は、現在、製品のほとんどを欧州およびアジアに出荷していますが、この増強は米国西部の需要増に対処するためのものだそうです。

(Web 公開)「世界のエネルギーの話題」(2009年 1 月 7日)

同社は 2 ヶ月後、「薄膜太陽電池を利用した北米最大となる出力 10 メガワットの大規模太陽光発電所がネバダ州ボルダー市に完成したと発表」(12 月 22 日、Business Wire)しています。First Solar の製品が使われています。

米国では太陽電池の市場の拡大が期待されています。

「政府の税優遇により数年以内にドイツを凌ぐようになるだろう」(11 月 14 日、ENP Newswire)といわれています。

専門家は、「主に米国政府の税優遇および再生可能エネルギーに対する補助金のおかげで、2009 年は住宅用および業務用の太陽光発電の需要が 40%増加する」(11 月 20 日、PRNewswire)と予想しています。

ひとこと

トレド市の状況は象徴的です。

Green jobs が米国の雇用を大きく支える可能性があります。

(YY)

本レポートは、世界の 2500 紙以上の新聞、5500 紙以上のビジネス紙および業界紙、600 以上のニュースワイヤー(速報)/プレスリリース等を検索できるファクティバ(ダウ・ジョーンズ社のデータベースサービス)を利用して入手した多数の記事、レポートを比較、分析して執筆しています。(山崎由廣)